

令和 6 年度 標準学力分析検査結果

嘉麻市教育委員会 学校教育課

1 調査の目的

生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2 調査対象の学年

中学校・義務教育学校（後期）全学年

3 調査の内容

前年度までの学習内容

・全学年（国語・社会・数学・理科・英語）

めざせ！標準偏差値（50）超え！！

	元年度実施	2年度実施	3年度実施	4年度実施	5年度実施	6年度実施
嘉麻市平均	48.8	48.6	47.1	46.0	45.5	45.8
標準偏差との差異	-1.2	-1.4	-2.9	-4.0	-4.5	-4.2

【令和6年度結果】



- 標準偏差値（50）を超えることを目指して取り組んできましたが、平成31（令和元）年度以降、本市の平均偏差値は下降傾向にあり、令和6年度は、昨年度よりも0.3P伸びが見られるものの、標準偏差値（50）から4.2P離れた状況です。また、昨年度の標準学力分析検査の各学年の推移と比較すると、「1年生（7年生）の4月の時点で、標準偏差値（50）に届いていない」「1年生（7年生）から2年生（8年生）に数値が下降し、2年生（8年生）から3年生（9年生）に数値が上昇している」という傾向が見られます。

【成 果】

- 5教科平均では、目標値を達成することができていませんが、1年生の時点で標準偏差値を超えている学校が1校、特定の学年の教科（社会科）において目標値を超えている学校が1校ありました。これは、小学校段階における学力向上策が有効であったり、教科における授業改善が図られたりした結果だと考えます。

【課 題】

- 一人一人に基礎・基本の確実な定着を図るための確実な評価、及び思考力を高める学習活動について推進していく必要があります。
- 中・義務教育学校(後期)における平日の家庭学習時間ゼロ時間の生徒、及び小・中・義務教育学校における週末の家庭学習時間ゼロ時間の児童生徒が全国平均より多く、家庭学習の習慣化に課題があります。
- 若年教員の授業力低下が指摘されており、学年・学級間における指導の格差が起きないように、継続して指導・支援していく必要があります。

【改善策】

- 1単位時間内に思考を伴う「書く活動」を位置付けた授業づくりとともに、単元や学習のまとまりを単位とした学習定着状況の把握と個に応じた指導の工夫を推進します。
- 確実な家庭学習の実施と個に応じた学習課題の提示を進める各校の取組を交流する場を設定することで、家庭学習の習慣化と内容の充実を図っていきます。
- 嘉麻市学力向上検証委員会（年間3回開催）において、授業づくりや学力向上の取組に対する組織的な評価・改善の在り方について指導・支援を行っていきます。